

私の音楽歴を振り返って

田尻 梨香(バイオリン講師)

2歳半でヴァイオリンを始めました

1歳頃から姉の行く音楽教室について行ってリズム打ちなどを楽しそうにしていたらしく、母は何か楽器を習わせようと思ったようです。指が細かったので、ピアノよりヴァイオリン向きかなという理由で決まりました。

幼稚園生の時は短時間でしたが1日2回練習していたようです。言うことをきく大人しい性格だったので、練習することに反発はしなかったと思います。ただ負けず嫌いの面もあり、練習で止まってしまった時に大泣きした記憶もあります。

母はピアノが趣味だったので、伴奏してくれたり、ヴァイオリンの指番号やポジションの書き込みもしてもらえたのはありがたかったです。6歳頃には鈴木メソッド10巻（モーツァルトのコンチェルト）まで進みました。

小学生時代

小学2年生の時にコンクールがきっかけで佐久間礼子先生に習うことになり、先生との出会いで、本格的にバイオリンを上手になりたいという思いが出てきました。また、先生の所に来ていた生徒さんも色んな方がいたので、視野が広がりました。私は本当に良い先生に恵まれているなと思います。先生とは今も交流が続いています。

この頃は毎年コンクールを受けたり、難しい曲(バッハの無伴奏ソナタや色々なコンチェルト)に挑戦して研鑽を積みました。

小学4年生の時には神奈川県コンクールで最優秀賞を頂くことができ、とても嬉しかったのを覚えています。

小学5年生で、先生に「梨香ちゃんは東京藝大附属高校に行けると思うわ」と軽く言われて、それからその高校に行きたいと意識するようになりました。

中学生時代

佐久間先生から藝大の教授の清水高師先生を紹介して頂き、藝大附属高校合格を目指す 3 年間でした。中学になると定期テストも手を抜けないし、楽典(音楽の知識)を学ぶ塾、ピアノ教室にも行っていたのでなかなかハードでした。

清水先生は優しいですがズバツと鋭い注意が飛んで来るので、レッスンは毎回緊張しました。先生には大学卒業までお世話になったので 10 年間習ったこととなります。先生の周りは優秀な生徒ばかりでしたので、必死で技術向上を目指した時代でした。

高校時代

藝大附属高校に合格してとても嬉しく、オーケストラを経験したり、周りにはピアノやチェロ、ハープ、オーボエなど色々な楽器を専門にするクラスメイトがいて、充実した 3 年間でした。高校 2 年の時には日本音楽コンクールという、国内で一番有名なコンクールにも挑戦しました。15 歳から 29 歳まで参加できるのでレベルも高く、そう簡単に結果は残せませんが、120 人以上の参加者から 30 人が残る 1 次予選だけは通過でき、いつかは最後の 4 人の本選に進みたいと思っていました。また、藝大附属高校生でも藝大に必ず合格するとは限らないので、常にプレッシャーはありました。

大学時代から現在まで

まずは藝大に合格したというのが嬉しく、音楽に打ち込む日々でした。

日本音楽コンクールにも挑戦し、そこで結果を出すのが目標でしたがなかなか上手いはず悩みました。

大学 2 年の時には楽器を買い替えたのも大きな出来事でした。コンクールで入賞するには楽器も大事という先生のアドバイスと、今の楽器があまり良く鳴らない実感もあり、買い替えの決断でした。実際に良い楽器を使うと音も出しやすく、弾くことが楽になった気がします。買ってくれた両親と祖父母には感謝しかありません。

楽器のおかげもあって大学 4 年の時には藝大フィルハーモニーオーケストラと共演する機会も頂きました。中々コンクールでは結果が残せず苦い思いもしましたが、コンサートに招待することができて、先生や家族に少しは恩返し出来たかなと思いました。

コンサートが決まる前、大学 3 年のときにはヴァイオリンを仕事にできる自信がなく、音楽家を諦めることを真剣に考えたこともありました。ただヴァイオリンを辞めるの？と思うと、虚しいというのも正直な気持ちでした。そんな時清水先生から「僕の生徒に音階を教えてほしい」と頼まれて、毎週中学生と高校生にレッスンすることになりました。音階は藝大と藝高の入学試験の課題です。初めて先生という立場になり戸惑いましたが、教えるということが自分にとってやりがいがあり、生徒が上手くなっていくのを見ると嬉しく思いました。

大学卒業後、音楽教室で講師として初心者もレッスンするようになりました。3～5 歳ぐらいの子や初心者を教えることの難しさを知りましたが、色々と工夫するのも楽しく、生徒さんが発表会などで立派に演奏しているのを見ると、教えていて良かったと思う日々です。

生徒さんがヴァイオリンを習うきっかけは様々ですが、どなたかの演奏を聴いて「こんな風に弾きたい！あの曲を弾いてみたい！」という方が多いです。音楽は誰かに伝える時に力を発揮するんだということを実感しています。そして人に聴いてもらうために練習している方は、上達が早いというのも経験則です。音楽を伝える相手は知り合いに限らず、インターネットなどでしたら世界中の人に発信することができますね。夢のある時代です。

弾きたい曲、弾きたい場所、聴かせたい人、またはヴァイオリンが好きという気持ちがある方は、必ず上達します。何もわからず始める方も、きっかけや思いを是非お聞かせ下さい。

ここまで読んで頂きありがとうございました。